

Title	メーカーにおける企業の境界 - 知識創造を最適化する内製化 / 外製化 -
Sub Title	
Author	古野, 潤(Furuno, Jiyun) 奥村, 昭博
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2005
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2005年度経営学 第2079号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2079">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2079</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 論文要旨

所属ゼミ	奥村 研究会	学籍番号	80430807	氏名	古野 潤
<p>(論文題名)</p> <p style="text-align: center;">メーカーにおける企業の境界            — 知識創造を最適化する内製化/外製化 —</p>					
<p>(内容の要旨)</p> <p>製造業を営むメーカーにとって生産プロセスを内製化するか外製化するかどうかという問題は最も重要な戦略的課題のひとつである。最近のメーカーの動向を見てみると、ある企業は生産プロセスの内製化を図り、逆にある企業は外製化を図ることで収益性の向上を狙っている。</p> <p>本論文においては、メーカーにおいて生産プロセスを内製化するか外製化するかどうかという「企業の境界」に関する課題を組織論的アプローチで整理した。そして、知識創造を最適にする「企業の境界」のあり方についての理論を構築した。理論の構築は、従来の先行研究ならびに内製化することで成功しているメーカーの事例から導き出した。理論構築の結果、メーカーが内製化または外製化で成功する条件は効果的な企業に特殊な知識を効率的に獲得することである、との仮説を立てることができた。なお、メーカーの成功は主に営業利益率で測定した。</p> <p>その仮説を3つの事例で検証した。3つの事例とは、内製化で成功しているメーカー、外製化で成功しているメーカー、外製化で失敗しているメーカー、である。3つの事例で検証した結果、いずれのメーカーも効果的な企業特殊知識を効率的に獲得しているか否かが成功の明暗を分けていることが確認された。</p>					